

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.99

2014.1.9

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019-684-2225

FAX019-684-2227

「平和憲法・

9

条をまもる岩手の会」
ニュースが

99号を迎えました!

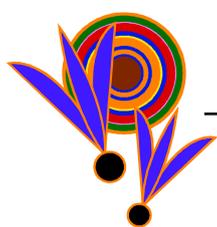
圧倒的な人気を誇り、聖域なき改革と憲法改正も持さない小泉内閣の暴走を止めるべく、2004年12月に結成された「平和憲法・9条をまもる岩手の会」では、2005年10月から「岩手の会ニュース」を月1回を基本に発行してきましたが、2014年新年を飾るこのニュースで99号となりました。

今また、安定与党となった安倍首相が9条そのものを変えなくても戦争ができる国に向かって突き進んでおり、私たちの活動も緩むことなく続けていくことが求められています。



この間、それぞれの活動の記事をお寄せいただき、たいへんありがとうございました。これからも、各地域・職場の9条の会の取り組みを紹介しながら、お互いの経験とアイデア、そしてエネルギーになればと思っています。

子どもたちの未来のために、9条に基づく平和な社会を守り築いていきましょう!



新春メッセージ

～〈ヤスクニ〉の作られ方～ 宗教者9条フォーラムいわて 事務局長 丸田善明

昨年10月のはじめの、横浜市の踏切で、父親の制止を振り切って老人を助けようとして、電車にはねられて亡くなった女性のことは、記憶に新しい。

通夜に先立って訪れた菅官房長官は、祭壇前で「身の危険が伴うにもかかわらず、救出しようとして尊い命を犠牲にされた。あなたの人命を重んずる真に勇気ある行為を心からたたえる」と安倍首相名の書状を読み上げ、残された両親に手渡したという。官房長官はテレビで、「他人にあまり関心を払わない風潮の中で、自らの生命の危険を顧みずに救出に当たった行為を国民とともに胸に刻みたい」と語った。街の人もまた、異口同音に彼女の〈勇気〉を讃えていた。

残された父親。何しろ目の前で死んでいったのだ。馬鹿な娘だ、悲しみと腹立ちと憤り…。「そっとしておいてほしい」と語っていたが、どうもそうはいかなくなったようだ。通夜の終了後に父は、「通夜の席で娘に向かって、褒章や感謝状を頂いたことを伝え、たくさんの方々がお見えになったよ、お前を褒めていたよ、奈ちゃんは大変だったよと伝えました」と述べたという。

しばらく前のことだが、JR山手線新大久保駅のホームから転落した男性を助けようと、居合わせた韓国人留学生とカメラマンが線路に飛び降りたが、救助は間に合わず、3人とも死亡するという事件があり、これも〈美談〉となった。行動を讃える顕彰碑も建った。

この顕彰碑の前に鳥居が立てば〈ヤスクニ〉になる。ここに毎年安倍首相がやってきて、私費でお花を買ってお参りし、「尊い命を犠牲にしたあなたの人命を重んずる真に勇気ある行為を心からたたえる」とコメントすれば、遺族感情はさておいて、亡くなった



《1 ページからの続き》

人は〈英霊〉となり、やがて事故のあった日には、大勢の街の人々が手に手に花を持って参拝に訪れるだろう。
〈ヤスクニ〉はこのようにして作られるのだ。

しかし、〈自己犠牲〉は本当に〈美談〉だろうか。もし、〈美談〉だとしたら、誰のための〈美談〉なのだろう。『銀河鉄道の夜』の中で、ジョバンニが「僕はもう、あのさそりのように、ほんとうにみんなの幸（さいわい）のためならば僕のからだなんか百ぺん灼やいてもかまわない」なんて口走ったのは、陶酔状態でのことだ。こんな〈誰かの幸せのためなら死んでもかまわない〉なんて簡単に云っちゃいけないし、云わせてもいけない。



2013 年戦争を語る冬のつどい

7000 通の軍事郵便から 農民兵士の声が聞こえる

《 一関九条の会 》



12 月 8 日、太平洋戦争開戦の日、コープ一関コルザで 30 人が参加し、戦争を語る冬のつどいを開催しました。講師は、北上平和記念展示館の高橋源英館長で、展示館設立の経緯や状況、そして、資料をもとに、戦場の兵士たちの心情を話しました。

この展示館は、平成 14 年に開設され、日中戦争や太平洋戦争に出征した農民兵士の「7000 通の軍事郵便」と戦争体験に関する資料を収集・保存・展示しています。この軍事郵便は、かつて教師だった高橋峯次郎のもとに届いたものです。峯次郎は、明治 41 年から昭和 19 年までの 37 年間、地区民や教え子に『真友』という郷土通信を送りました。発行部数は、多い時で約 1000 部にのぼります。その内容は、入営した現役兵の氏名、徴兵検査を受ける者の氏名、役場の動き、稲作の状況、米の増収方法、村内めぐりあるきなどでした。これを受け取った農民兵士のよこびは大きく、まるでふるさとにもどったようだ、むさぼるように読んだそうです。この『真友』を読んだ兵士たちは、峯次郎あてに手紙を返信しました。これが、現在展示館に残されている「7000 通の軍事郵便」です。手紙には、『真友』を受け取った喜びと必勝を誓う内容が多く見られます。厳しい検閲の中、生々しい戦況を伝えるものが相当数あり、発信地は、日本国内、中国、満州の順に多く、南方からのものは少ないそうです。高橋館長は、このほか、軍服の実物を見せて、当時の大人は今の小学 6 年生ぐらいの体格しかなく、食糧事情がよくなかったことが分かるなどの話もしました。

改めて平和への願いを強くしました。

(一関九条の会ニュースより)



一関九条の会の世話人で、平和憲法・9 条をまもる岩手の会の呼びかけ人でもある千田功平弁護士が 11 月 24 日急逝されました。お亡くなりになる前日は特定秘密保護法反対の講演を行っており、廃案に協力を呼びかけるなど精力的に活動されていました。

心からご冥福をお祈りいたします。



ドキュメンタリー映画「標的の村」上映会を開催

とうわ九条の会

12月15日、とうわ九条の会ではドキュメンタリー映画「標的の村」の上映会を行いました。午前・午後の2回上映で約180人が鑑賞しました。

この映画は、琉球朝日放送が記録したもので、5年前、新型輸送機「オスプレイ」着陸帯建設に反対し座り込んだ東村・高江の住民を国が「通行妨害」で訴えたことからはじまります。わがもの顔で飛び回る米軍のヘリに対し、住民は自分たちは標的なのかと憤り、かつてベトナム戦争時に造られたベトナム村（1960年代、ベトナム戦を想定して沖縄の演習場内に創られた村）の記憶がよみがえります。米軍は農村に潜むゲリラ兵士襲撃訓練をしていましたが、高江の住民がたびたび南ベトナム人の役をさせられました。米軍の軍事訓練の標的にされながらほとんど報道されず、黙殺され続けています。この映画は沖縄の現状を訴えています。

鑑賞した方からは、「初めて知った。『当たり前な生活を守りたい』という村民、対する公権力の不当さに怒りを覚える」「人の命や生き方より、軍事や外交を重視する国家のあり方に疑問を持った」「監督のドキュメンタリーに向き合う迫力を感じた。米兵が笑みを浮かべながら見ている場面をしっかりとらえ、この現実には潜むものを露わにしている」などの感想が寄せられました。上映後には交流会も行い、高校生も参加し、今後の運動につながるような交流ができました。



STOP！ 特定秘密保護法～地域の会・団体の取り組み

戦争ができる国にはさせられない！地域の会や団体では反対運動に取り組んでいます。

● 平和憲法・9条を守る盛岡北部の会

11月30日に総会を開き、「『特定秘密保護法案』をただちに廃案にすることを求めるアピール」を採択し、県選出の衆参国會議員、東北地区選出の紙智子議員、高橋千鶴子議員、安倍首相、参議院議長に送付しました。その後に開催した事務局会議で「『秘密保護法』の撤廃を求める署名」を集めることを決定しました。

● 憲法九条を守る紫波町民の会、憲法・9条を守る古館の会

12月8日に合同で「秘密保護法の強行採決に抗議し、撤廃を求める緊急講演会」を開催（約50人参加）。佐々木良博弁護士の熱弁を聞き、撤廃をめざして運動を強化する決議をあげました。

● 憲法改悪反対県共同センター、オスプレイ配備撤回・低空飛行訓練中止を求める岩手県連絡会

11月22日から連日街宣署名行動を実施。また、緊急に12月6日に昼デモを開催し、150人が参加し反対の意志を示しました。あわせて12月3日に県議会請願を行いました。委員会、本会議で否決されました。（しかし、別途議員発議の意見書が採択）

● 大宮9条の会

前回「岩手の会作成のチラシを200枚活用し地域へ配布」と紹介しましたが、岩手の会作成チラシの裏に独自のチラシを印刷し、地域に約1,000枚を戸別配布した、とのこと。お詫びして訂正いたします。

岩手の会では、2月8日（土）に学習・活動交流会を予定しています。活動交流では、地域の会の活動を出し合い、じっくり時間をかけて交流できるように考えています。学習では、対象を多くの市民に広げ、この秘密保護法についての危険な中身や、戦争ができる国にさせないために私たちはなにをすべきかを学びます。詳しいご案内は別途送付いたします。ぜひご参加よろしくお願ひします。

映画「ひまわり」～沖縄は忘れない あの日の空を～ フォーラム盛岡で2月下旬から上映決定！

沖縄の基地問題を正面から描いた初めての劇映画「ひまわり～沖縄は忘れない あの日の空を～」が盛岡で上映されます。「映画『ひまわり～沖縄は忘れない あの日の空を～』を観るいわての会」の事務局を平和憲法・9条をまもる岩手の会がつとめることとなり、地域組織や平和の運動をご一緒した団体に声をかけ、上映成功にむけて取り組みを進めています。

この映画は、悲惨な沖縄の地上戦から14年目の1959年の「石川・宮森ジェット機墜落事故」、2004年の「沖縄国際大学米軍ヘリ墜落事件」をモチーフに、オスプレイ配備に揺れる今の沖縄・日本に平和とは何かを問いかける映画です。沖縄の人の基地への思いや心の葛藤を登場人物から知ることができ、沖縄に起こっている様々な問題が凝縮されて描かれています。



日頃から平和・9条をまもる運動をすすめているみなさんと一緒に進めていきたいと考え、1月18日に試写会を行うことになりました（詳細は別紙チラシをご覧ください）。ぜひ試写会でご覧いただき、映画「ひまわり」を多くの方におすすめてください。

◆試写会 1月18日（土）13：30～ 岩手県民会館4階第2会議室
無料ですが、事前にお申し込みをお願いします。

◆映画「ひまわり」上映日程

2月22日（土）～3月7日（金）午前10時～

フォーラム盛岡（土日は午後の上映もありますが時間は未定。

分かり次第お知らせします）

◆特別鑑賞券 1,000円

（当日料金 一般1,800円、高校・大学生1,500円、小・中・シニア1,000円）

フォーラム＝「物言えば唇寒し」の時代再来なんてとんでもない！

そうです。先に安倍政権が強行成立させた「秘密保護法」のことです。国会論議が深まれば深まるほど「国民の目・耳・口をふさぐ」ものであることが明らかになり、国民が反対や廃案を求めて、続々と名乗り出る状況でした。この国民の世論と運動はその後も続き「秘密保護法」の廃止を求める運動の始まりになっています。

それにもかかわらず、安部政権と与党は「共謀罪」や「盗聴法」の拡大強化を議論し始めました。加えて、「武器輸出三原則」に反して、南スーダンに展開する国連平和維持部隊の韓国軍に、銃弾1万発の提供を即座に決定しました。これでは次は集団的自衛権の行使の容認、続いて安部政権の政権行動からして自衛隊に発砲させることを即座に決定することも懸念されることになるのではないのでしょうか。考えすぎでしょうか。

暴走、一路「戦争する国づくり」。戦前の日本は「戦争する国」でした。アジアに被害を及ぼしただけではなく、日本国民も「塗炭の苦しみ」を味わわされました。例えば「隣組」などと言って国民同士がお互いに監視しあうことをさせられました。このとき「物言えば唇寒し」と言ってなかったのではないのでしょうか。人の話を聞いても読書をして嫌な時代であったことが想像できるし、二度とそういう時代にさせたくありませんね。

STOP、安倍政権！国民の「世論と運動」はもうちょっと広がり、強くなるのが求められているのではないのでしょうか。
(T)

今月の署名行動

岩手の会「9の日」街宣署名行動は1～3月の冬期間お休みします。
各地域での取り組みをお願いします。